

株式会社FUJI: 心豊かな暮らしの実現を支える innovative spirit



代表取締役会長兼社長
曾我 信之

曾我氏のコメントにあるように、「スタートキーを回せば、すぐに目的のワークが生産できるように、それぞれの顧客のニーズに最大限応えられるようにチューニングされている」のである。

一つの分野にとらわれないものづくり企業として、FUJIは今もさまざまな製品群で限界に挑み続けている。曾我氏の「顧客のニーズに応える製品を開発するだけでなく、顧客が想像もしなかったような革新的な製品を世に送り出すことで、弊社は発展してきた」とは言い得て妙である。FUJIの製品は世界60カ国以上に出荷され、海外売上比率は8割を超える。「NXTシリーズだけでも、すでに10万台以上出荷している。」FUJIの持続的な発展のカギはマーケティングを強化し、イノベーションを起こし続けることにある。「デジタル人材を育成しながら、基盤となる革新的な企業文化をさらに進化させることが急務であると考える。」と曾我氏。

先々を見据え、IoT、クラウド、AIなどの在来技術で優位に立つとともに、SDGsに貢献する技術を有することが、今後の製品づくりにとって重要である。一方、海外生産拠点の拡充については、具体的な計画はないものの国際的な政治・経済情勢から今後必要になってくるかもしれない。「工作機械事業も含め、関連設備メーカーと戦略的な業務提携、出資、事業買収を行う体制を整えている」と、曾我氏は付け加えた。

FUJIグループは、「人々の心豊かな暮らしのために」という理念のもと、新しい価値を創造し、お客様に感動を与える製品・サービスを提供することで、世界中の人々のニーズに応え続けていく。曾我氏は「私たちが提供する製品やサービスは、心を豊かにし、環境保護や健康、世界平和にも資するものでなければならない。」と強調する。心豊かな社会を実現することは、FUJIグループの地球への大きな貢献のひとつとなるだろう。

FUJIは、1959年の創業以来、今日に至るまで、SMT装置や多関節ロボットなど、革新的かつ独創的な製品を世界中のお客様にお届けすることを事業の中心に据えてきた。また、世界的なロボットメーカーとして、世界の変化を先取りし、社員の成長を促すとともに、環境・社会・ガバナンスなど多面的な企業価値の向上を図り、持続可能な社会の実現に取り組んでいる。

FUJIの主力事業である電子部品実装ロボットは、自動組立機という新しい分野への飛躍によりその礎が築かれた。CEOである曾我信之氏は、その設計思想を「高速・高精度で、耐久性・メンテナンス性に優れているのが特徴だ」と語っている。実際、同社の実装機は、長い時間をかけて開発・改良された技術がベースになっている。さらに、同社の工作機械は、ターンキー・ソリューションを提供するという点でも魅力的だ。

The graphic features the FUJI logo at the top left. It displays a variety of industrial robots, including a large articulated arm robot, a smaller mobile robot, and a robotic hand. Below these, there are images of factory interiors and a QR code. The text 'FUJI robots lead the way' is prominently displayed in the center. At the bottom, there are labels for 'Specialty Markets' and 'Smart Factory Robotics'.